



映画・本・歴史のこと
〈第22回〉 宣弘社と怪傑ハリマオ(後編)
有田誠(ありたまこと) 京丹波町在住の映画愛好家
写真はタイ・バンコクの僧侶(筆者撮影)

ハリマオと外地

『怪傑ハリマオ』は一九六〇年四月から翌年六月まで、全五部六五回が、放映された。

ジャワ、バンコク、アンコールワット、香港、大連、蒙古などが舞台となった。

海外ロケも行ったが、東京の異国風な場所が度々登場する。初回からジャワ統治庁として、神宮外苑の絵

画館が出てくる。コバール長官の根城である。旧古河庭園は、もとは陸奥宗光の邸宅だが、悪徳商人陳秀明の洋館として撮影された。

画『憎いあんちくしょう』のスタッフ、キャストを見ると、監督の蔵原惟繕はポルネオのクチン生まれ、父はゴム園を経営していた。脚本の山田信夫は大連育ち、助監督の藤田敏八は平壤で生まれた。浅丘ルリ子は新

小津映画にも出てくる築地本願寺。外観はインド風だが、イスラム、西洋、日本の様式が混在する。

京(現長春)に生れ、バンコクに移っている。石原裕次郎は神戸、小樽、湘南に住んだ。海ばかりである。日活

浄土真宗本願寺派法主で、探検家の大谷光瑞と親しかつた東京帝大伊東忠太の設計である(大谷コレク

所からも醸し出される。何百万人もの人々が外地から引き揚げてきた。こうした日本を外から見る視点を多かれ少なかれ持った人々によつても、昭和三十年代の経済成長が為された

シヨンを展示する旅順博物館は、現在も見学可)。

ことは、頭に入れておくべきだろう。

とにかく、ハリマオに日本は出てこない。

この時代の日本人のヒーロー力道山は朝鮮人、王貞

本は出てこない。

きだろう。

敗戦と引揚げ

一九六二年公開の日活映

ようになった。

日米開戦(一九四二直前、陸軍参謀本部や中野学校出身者によつて、対英諜報機関が設立された。機関長は藤原岩市、F機関と呼ばれた。服役中の豊を賄賂で出獄させ、スパイ活動やゲリラ戦に従事させた。

しかし、豊はマラリア、結核で、シンガポールの陸軍病院で死亡した。三十歳だった。

F機関軍属として谷豊は戦死扱いとなり、靖国神社に合祀されている。

主題歌をめぐる三人

作曲小川寛興

小川は『月光仮面』を始めとして、宣弘社作品の作曲の多くを手がけた。『おはなはん』、『細うで繁盛記』など、一千曲に及ぶ仕事を残した。

業務用カラオケでは、二十数万曲が歌えるらしいが、「ハリマオ」は、ランキングでも今も上位一・五パーセント内に入っている。

歌謡曲では、大ヒットした倍賞千恵子『さよならはダンスの後に』や中村晃子の『虹色の湖』などがある。

もとは歌手を目指していたが、服部良一の内弟子となり、作曲家に転向した。二人は品川区の同じ町内に住んでいた。どちらも品川名誉区民として肖像写真が区役所に飾られている。九十才を越えてデイサービスに通っていた頃、送迎バス内で全員揃ってハリマオの主題歌を歌うのが恒例だった。

静岡県富士市出身。売れない時代がつついたが、二四歳(一九三三)のとき、ついに大ヒットをとばす。それが『かわい魚屋さん』である。作曲は山口保治。加藤は童謡の人である。

その後、音楽関係の編集者として暮らす。敗戦の翌年、あの『みかんの花咲く丘』が誕生する。月刊誌の編集長として、童謡歌手川田正子の取材に行った。彼女は、作曲家海沼

作詞加藤省吾

静岡県富士市出身。売れない時代がつついたが、二四歳(一九三三)のとき、ついに大ヒットをとばす。それが『かわい魚屋さん』である。作曲は山口保治。加藤は童謡の人である。

その後、音楽関係の編集者として暮らす。敗戦の翌年、あの『みかんの花咲く丘』が誕生する。月刊誌の編集長として、童謡歌手川田正子の取材に行った。彼女は、作曲家海沼

治は台湾人、大鵬は白系ロシア人である。

九州男児谷豊

ハリマオの正体は、海軍中尉大友道夫という設定である。しかし、もとは谷豊という実在の人物であった。一九一一年、理髪店を営む一家の長男として福岡市で生まれた。マレーの景気が好いと聞き、家族でタイ国境近くのトレンガヌに渡る。豊はもつぱらマレー人や中国人の子供たちと遊んだ。喧嘩っ早い親分肌の所があった。

何度か福岡に帰るものの、二十歳の時の徴兵検査で背が低く不合格となる。福岡で職を

族でタイ国境近くのトレンガヌに渡る。豊はもつぱらマレー人や中国人の子供たちと遊んだ。喧嘩っ早い親分肌の所があった。

何度か福岡に帰るものの、二十歳の時の徴兵検査で背が低く不合格となる。福岡で職を

族でタイ国境近くのトレンガヌに渡る。豊はもつぱらマレー人や中国人の子供たちと遊んだ。喧嘩っ早い親分肌の所があった。

何度か福岡に帰るものの、二十歳の時の徴兵検査で背が低く不合格となる。福岡で職を

族でタイ国境近くのトレンガヌに渡る。豊はもつぱらマレー人や中国人の子供たちと遊んだ。喧嘩っ早い親分肌の所があった。

何度か福岡に帰るものの、二十歳の時の徴兵検査で背が低く不合格となる。福岡で職を

實宅に寄宿していた。

そこで、「明日の夜、NHKラジオで川田が歌う歌を書いてくれ」と海沼に頼まれた。大急ぎで書いたのが『みかんの花咲く丘』だった。作曲はもちろん海沼實である。

歌手三橋美智也

六五歳で亡くなるまでのレコードイング数は二五〇〇曲、津軽三味線の名手でもあった。レコード売上枚数は一億枚を突破、百万枚以上売れたのが三二曲もある。美空ひばりも敵わない。

三橋と同期にキングレコードに入った敏腕プロデューサー長田暁二的確な判断が、三橋の起用となった。

三橋美智也は、北海道出身だが、ルーツは青森である。ハリマオを演じた勝木

転々とするが、マレーへの想いが募っていった。満洲事変(一九三三)の二か月後、父が死亡。その二年後、九歳の妹が華僑に殺害された。豊はマレーに移った。

現地では、マレー人を率いて盗賊団を組織する。英国人や裕福な華僑を襲った。そしてハリマオと呼ばれる



現在、京劇の劇場となっている東本願寺跡(大連にて筆者撮影)

敏之も青森、公募でその恋人秋江役をやった江島慶子も青森の人であった。

恐るべき宣弘社

明治大学を出て、郷里の宮崎で教員になろうと思っていた阿久悠は、就職課に勧められ宣弘社に入った。後に劇画家となる上村一夫がアルバイトとして企画課の阿久のもとに配属された。阿久が詩を書き、フラメソングライターがプロ級の上村が作曲、社内の昼休みにお披露目をやっていた。この企画課の課長伊上勝

は、『遊星王子』四六回の脚本を一人で書いた。『怪傑ハリマオ』六五回は大村順一と共同で、『隠密剣士』一二八回もほとんど一人で書いていたのである。実に宣弘社は超人怪人の集団であった。



三橋美智也の看板
(福岡県飯塚の嘉穂劇場にて筆者撮影)